

## 10/16反戦・反貧困・反差別共同行動 in京都 に950人

9/19 反原発6万人集会を成功させた、ルポライター・鎌田慧さんは、今後の行動提起について、「12/10日比谷野音集会ー2/11全国同時50万人デモー3/11福島デモー3/24日比谷野音で1000万人署名総括集会ーそして、来年5月か6月に10万人集会を開催して、原発再稼働を止め、全原発を止める民衆運動を展開しよう」と集会参加者に呼びかけられました。

そして、「9/19の呼びかけ人(大江健三郎さんら)は本気で原発を止めるために闘う。原発絶対反対の闘いが原発を真に止めると。ヒロシマで日本は国体護持などと言って戦争をやめなかった。そして、ナガサキを迎えてしまった。

今、私たちは、フクシマの次に来る原発事故前にしている。市民こそが先頭に立ち、政党などは、手足になる、そんな運動を展開するときだ」と熱烈に訴えられました。

ドイツ緑の党会派副代表のベーベル・ヘーン議員は、「工業国ドイツで、原発を止めることを決意した。原発の事故リスクは、想像以上に大きい。放射性廃棄物は処理できない。将来の人々に責任を負わせる無責任な技術と構造がある。大企業がエネルギーを独占し、市民が被害を受ける。そして、ほかに再生エネルギーという方法がある。それは、原発より大きな雇用を生み出せる。原発廃止は、こんな風がいいことしかない」と。



90歳になる瀬戸内寂聴さんは、「会場満杯かと思ったが、まだ少ない、若者が少ない、もっともっと集めよう」と切り出し、「若者が福島で(ボランティアで)がんばっているのを見た。まだ大丈夫だ。皆さん、生きることは行動することだ。青春は恋と革命だ。日本は革命を起こさねばならない。脱原発署名で、1000万人の一人になるのは人間の誇りです」と結ばれました。

参加者950人の長いデモは、休日の京都の繁華街・河原町を多くの市民に訴えながら京都市役所まで進みました。

原発再稼働と原発輸出を進めようとする野田政権に対して、京都からの反原発の決定打となつたのではないかと思います。



### 第10回 生活・労働相談会

11月6日(日) 10:00~16:00  
場所・・・JR草津駅東口デッキ

(相談無料・秘密厳守)

主催・・・11/6生活労働相談会実行委員会

関西合同労組は一人でも入れる労働組合です。